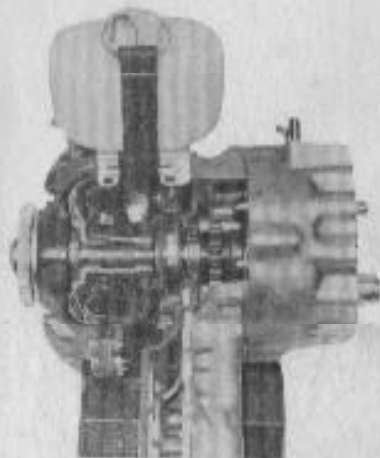


MS 3 1 型


流体トルク コンバーター



取扱要領

スライド台本

この資料は全文で100ページ有ります。この中から
不具合探求に必要な部分を抜粋し掲載します。
コピー製本の資料が必要な人はトップページの「ラビット
整備マニュアルの販売」に従って請求下さい。

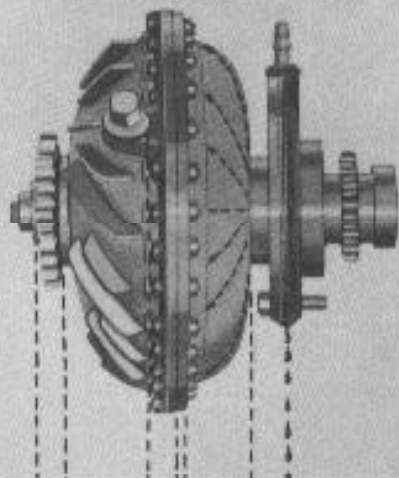


不具合の 発見法

こゝまで見て載きましたらトルクコンバーターの原理、構造及び機能について大体お解りになった事と思いますので、組立作業に入る前に不具合の発生し易い箇所とその発見方法並びに原因と修理方法について説明致しますよう。

MEMO

⑦2 オイル洩れの発見方法 (1)



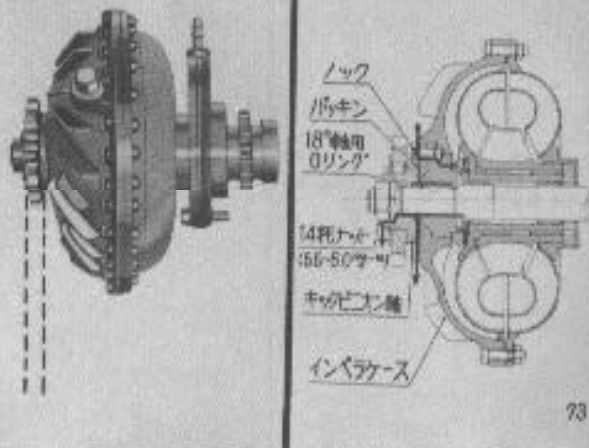
トルコンオイルの洩れる個所を発見するには、先ず、コンバーターの外部を布でキレイに拭き、画面のように汚れのない白い紙を置きます。

次にエンジンを毎分2000回転位の速さで運転しますと、オイル洩れがある場合には、オイルが紙の上に飛びますから、其の飛ぶ位置によってオイル洩れの個所を発見致します。

全然オイル洩れがない場合でも、コンバーターオイルを補給したすぐ後などでは、補給した時にコンバーターの外面についたオイルが、キレイに拭い取り切れないでオイルが紙に飛ぶことがあります。このような場合には2～3分で飛ばなくなります。

MEMO

⑦③ オイル洩れの発見方法(2)



73

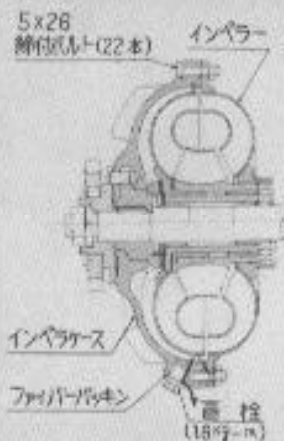
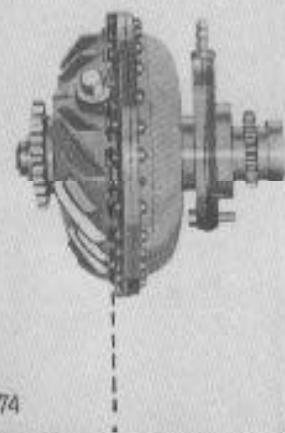
左の画面のようにオイルが飛んだ場合には、その原因としては、

- (1) 18φ軸用Oリングが損傷しているか、キチンと挿入されていない場合。
- (2) インベラケースのアルミと鉄の鍍込み部の合せ面を浸透してオイルがノック部分から洩れる場合。
- (3) 14耗ナットの締付不良又はパッキンの不良によって、インベラケースとキックピニオン軸との間からオイルが洩れる場合。

等があり、18φ軸用Oリング、キックピニオン軸用パッキンを新品と交換するか、Oリングを正しく挿入し、14耗ばね座金を忘れずに挿入して14耗ナットは、トルク5.5～6.0kg-mで、しっかり締付けて下さい。

又、インベラケースのアルミと鉄の鍍込み部分からオイルが浸透して洩れるものは、インベラケースを新品と交換して下さい。

⑦④ オイル洩れの発見方法 (3)



74

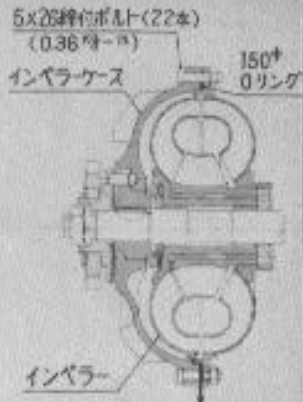
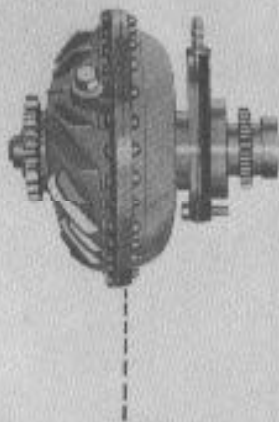
左の画面のようにオイルが飛んだ場合には、その原因は、右の画面のように、盲栓が緩んでいるか、8耗平型ファイバーパッキンが損傷しているか、入れるのを忘れた場合。又は8耗ヘリサートにガタが出た場合です。

このような場合には、ファイバーパッキンを新品と取替え、盲栓はトルク $1.6\text{kg}\cdot\text{m}$ でしっかりと締付けて下さい。

又、ヘリサートにガタが出ている場合には、抜取って新品と交換するようにしましょう。

MEMO

⑦5 オイル洩れの発見方法(4)

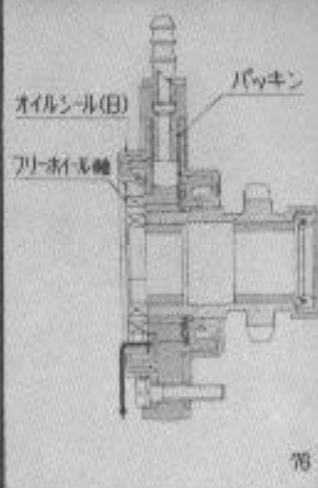
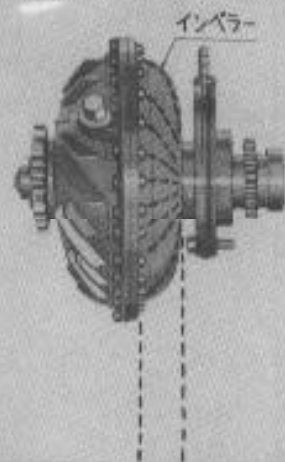


左の画面のようにオイルが飛んだ場合には、その原因は、右の画面の、150φ Oリングが損傷しているか、インベラーとインベラーケースの間に噛込んだまま、組付けられてしまった場合、又は、インベラー全周を締付けている5×25締付ボルト22本の締付け不十分による場合です。

このような場合には150φ Oリングを新品と交換し、インベラーとケースの間に噛込まないように正しく組付け、5×25締付ボルト22本は、トルク0.36kg-mで対角線状にシッカリと締付けて下さい。

余り強く締付けますとネジ切れる恐れがありますから充分注意して下さい。

又、対角線状に締付けませんとインベラー及びインベラーケースが変形して油洩れをしますから必ず対角線状に締付けて下さい。



⑤ オイル洩れの発見方法 (5)

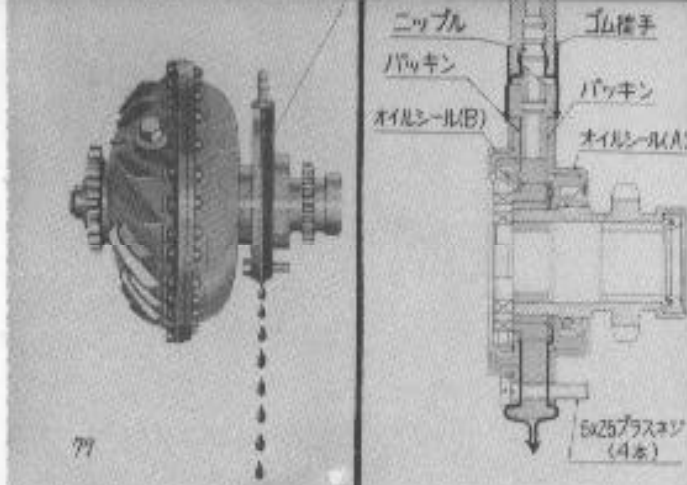
78

左の画面のようにオイルが飛んだ場合又は、インベラー背面に点線のように放射線状のオイルの痕跡がある場合には、その原因は、右の画面の、オイルシール(B)が損傷しているためで、トルオンコイルの消耗が、1ccに対して20kmも走行出来ないようでしたら、オイルシール(B)を新品と交換して下さい。

又、その時クランク軸部に疵、まくれ等の不具合があれば細かいペーパーやすりで円滑、丁寧に修正して下さい。

MEMO

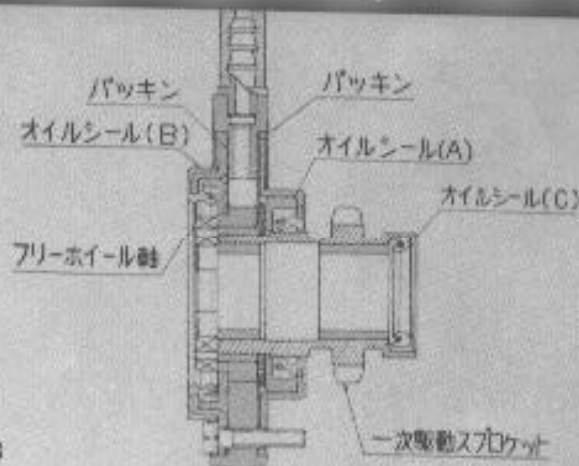
⑦ オイル洩れの発見方法(6)



左の画面のようにオイルがフリーホイール下部から滴下する場合は、その原因は、右の画面のように、

- (1) オイルシール(B)とフリーホイール取付板との接触面に歪がある場合。
- (2) オイルシール(B)とフリーホイール取付板の間にあるパッキンが不良である。
- (3) ニップルのフリーホイール取付板への締付不良である。
- (4) フリーホイール取付板とトルコンタンクをつなぐゴム接手が損傷しているか、又は挿入部からオイルが洩れている場合。
- (5) 5×20プラス丸小ねじ4本又は、5×25プラス丸小ねじ4本の締付不十分の場合。

ですから、夫々修正、交換、増し締めをして下さい。



78

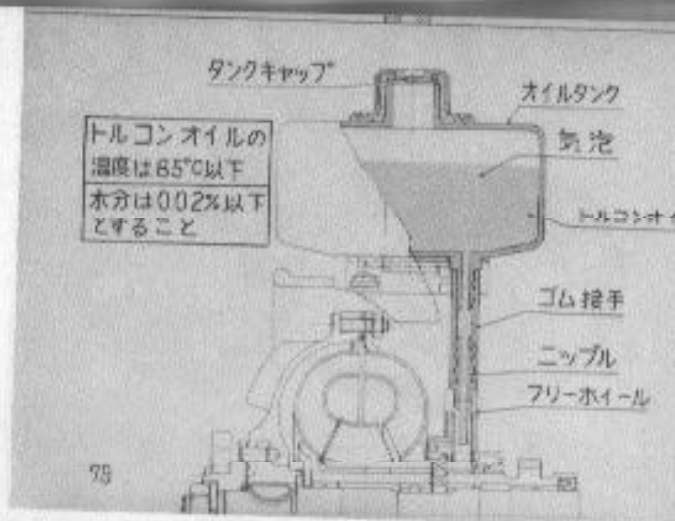
トルクコンバーター外部にオイルは洩れないけれども、トルコンオイルが減少するような場合、その原因は、

- (1) オイルシール (A) が摩耗又は損傷している場合。
- (2) フリーホイール保持板とオイルシール (A) の間にあるパッキンが不良の場合。
- (3) 一次駆動スプロケット内のオイルシール (C) が摩耗又は損傷している場合で、トルコンオイルは、チェーンケース内に流れ出てしまい、チェーンケースオイルの油量が増し、粘度が低下します。

このような場合には、オイルシール (A)、パッキン、オイルシール (C) を新品と交換すると共にオイルシールの当る軸部に疵やまくれ等の不具合があるかどうかを確かめ、円滑・丁寧に修正して下さい。

MEMO

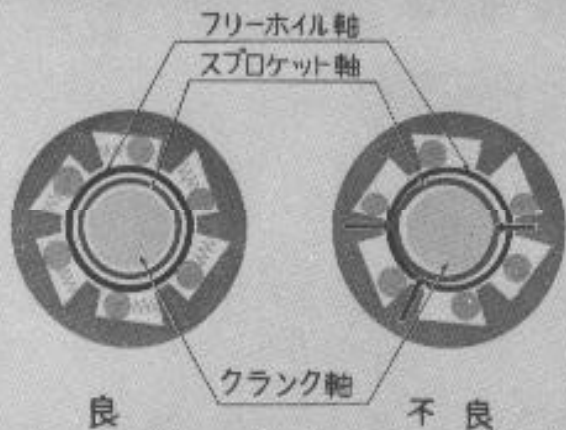
⑦ トルコンオイルへの水の混入



コンバーターオイルの中に水が混入したりしますと、ゴム接手を通過してコンバーターの方からオイルタンク中に気泡が盛んに昇って行きます。

若しコンバーター中に0.02%の水が入っていてもコンバーター内部の温度が85℃以上になりますと異常膨張をして、オイルが各部から吹き出すようなことにもなり兼ねますので、コンバーターの中には水が入らない様に特に注意して下さい。

MEMO



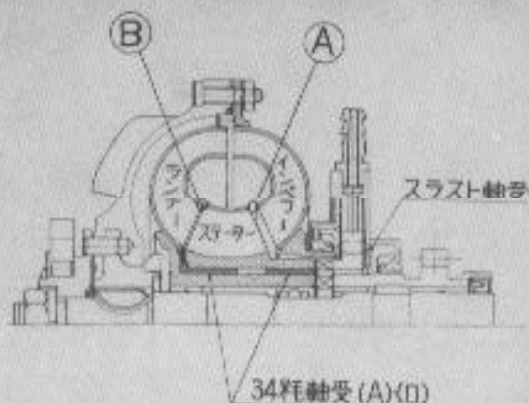
80

エンジンは始動し回転も上がるのに車が進まない様な場合には、フリーホイールスプリングが無いか、折損したか、又は入れ方を間違えたかの何れかです。

正常なフリーホイールの場合には左の画面のように6箇のローラーが均等にフリーホイール軸を押えていますが、確固な場合としてスプリングを入れ忘れた様な場合には右の画面のようにローラー1つ丈とフリーホイール保持板の2つの山でフリーホイール軸を押すために、フリーホイール軸が変形してスプロケット軸をハサムために車が走らなくなります。

又、スプリングをボールの反対側に入れてしまいますと、空転りをしてしまいます。

MEMO



又、コンバーターの内部で金属が当たる様な音をする場合には、

- (1) ステーターとインペラーが当る。
- (2) ステーターとランナーが当る。
- (3) 何か異物がオイルに混入して入っている。か
- (4) ベアラー、インペラー又はランナーの羽根の一部がハガレを起している。

等が考えられますが、ステーターとインペラー又はランナーとが当るのは、ステーターの34耗軸受 (A) 及び、(D) が摩耗した場合や、フリーホイールのスラスト軸受が摩耗したり、入れ忘れた様な場合に起ります。

又、トルコン内には細かい異物も入らない様に注意して下さい。

尚、羽根がハガレる事はトルコン内に異物が入らない限り起りませんが、ひどく変形した場合は新品と交換して下さい。